

評論的な随筆の読解

—中国語を母語とする日本語学習者と

日本語母語話者の批判的な読みに関する質問紙調査—

砂川有里子（筑波大学名誉教授）

sunakawa0001@me.com

朱桂栄（北京外国語大学）

syukeiei@163.com

【要約】

本稿の目的は、中国語を母語とする学習者と日本語母語話者が日本語で書かれた評論的な随筆を読んだとき、主観的な評価の仕方にどのような相違が現れるかを調べることである。中国語と日本語を母語とする大学院生を対象にした質問紙調査で、筆者の主張や論理展開の仕方に対する理解や主観的な印象の違いを尋ね、否定的なコメントを中心に精査することにより、両者の相違を批判的な読みという観点から明らかにする。

1. はじめに

日本では2003年にOECD（経済協力開発機構）によって実施されたPISAの調査で日本の子供たちの「読解力」がOECDの平均程度にまで低下している状況にあることが報告された。PISA調査の「読解力」とは「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」のことである¹。文部科学省はこの結果を受け、2005年に「読解力に関する指導資料-PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向-」を発表したが、その指導の方向の一つとして批判的な読みの重視が掲げられている²。昨今、批判的な読みの指導は学校教育で重視されるようになってはいるが、その効果はさほど見られていないようで、2018年のPISA調査では順位の低下がさらに進み、OECDの平均を下回る結果となっている。その原因のひとつに、スマートフォンやSNSの普及により子供たちが長文を読まなくなったことが考えられるが、多様な情報がさまざまな媒体から信憑性の有無を問わず大量に流れ込んでくる今の社会では、情報を正しく理解し、その真偽を判断し、自分の問題意識に照らして情報の取捨選択をする力や情報を正しく評価する力が、これまで以上に必要とされている。

筆者らが大学院生を指導した経験では、情報収集をしたり文献の内容を読み解いたりすることはできて、それを自分の問題意識に照らして分析・評価し、自分の研究課題と関連づけながら論じることと問題のある院生が少なくない。砂川の所感では、その傾向は日本の学生より中国をはじめとする東南アジアからの留学生に多く認められるように感じている。また、「批判的な読み」ということを「攻撃的な読み」と勘違いし、闇雲に批判したり否定したりするというケースがまれに見受けられるが、これも中国からの留学生に起こりがちのことであった。このように、大学院生の指導という一点を取

ってみただけでも、批判的な読みの指導をどのように行えばよいのか、問題は山積みである。そこで本稿では、日本語を母語とする大学院生と中国語を母語とする大学院生を対象に、日本語の随筆を用いた読解調査を行うことにした。

1. 1 随筆とは何か

随筆とは、筆者の体験・見聞・感想などを自由な形式で書き綴った文章のことを言い、文学的なものから論説的なものまでの幅広い領域にまたがるテキストジャンルである。このように、随筆は幅広く多様な内容をカバーし、文章の長さも比較的短くコンパクトにまとまっているため、国語教育や日本語教育での読解教材としてしばしば用いられている。随筆を日本語教育に活用するための研究としては、立川（2008）が文学的文章の読解について、また、立川（2013）が論説的文章の読解について論じ、それぞれの教育実践を報告している。

随筆は、日本の中で長い時間をかけて生まれ、中国の随筆や欧米のエッセイなどの影響を受けながらも日本独自の要素を多分に含む独特なジャンルとして確立されている。このことから日本以外の国や地域に見られる類似のテキストジャンルとは異なる点が少なくない。例えば、立川（2007）は、随筆を欧米のエッセイと比較し、エッセイが書き手の自由な主張を行う傾向が強いのに対し、随筆は読み手の特性や欲求に配慮した文体が用いられ、筆者の考えは読み手に嫌がられない程度に抑えた調子で叙述するのが普通だと述べている（p.207）。このような特徴を備えているため、日本語学習者は自国語の文章構造や語り口との違いに影響されて、日本の随筆の読解に困難を感じることもある。例えば、舘岡（1996、1998）は、随筆によく用いられる起承転結という文章構造が英語母語話者になじみが薄いものであるため、韓国語や中国語の母語話者に比べて英語母語話者は起承転結型の読解が弱いという報告を行っている。このように、国や地域による文章構造のスキーマの違いが読解のあり方に大きく影響する。

1. 2 読解に対する影響

読解のあり方は、前節で述べた文章構造のスキーマの違いの他に、自国でどのような読解教育や作文教育を受けてきたのかということにも影響を受けるものと思われる。起承転結構造は、必ずと言ってよいほど日本の学校教育で取り上げられ、読解や作文の指導に使われるトピックである。一方、中国の学校では韻文などの文学作品に関して起承転結構造が講じられることはあるが、論説文に関しては日本ほどその構造に注目することがないようである。さらに、書くときの論理の展開の仕方や主張の仕方の指導、あるいは読み解くときの分析の仕方や問題意識の持ち方の指導については日本と中国の教育方法が同じとは限らない。両者にどのような相違があるのかが明らかになれば、それが読解に与える影響を考察することを通じて、日本語教育に役立てることが可能となる。さらに、母語であるか外国語であるかの違いや文化的・社会的な知識の違いが読解に影響を与える可能性も否定できないだろう。語彙や文法といった局所的な言語処理で問題を抱える学習者は、そのことによって大局的な言語処理が阻害されるなど、何らかの影響を受けるということは十分に考えられる。日本語能力のどのレベルでどのような影響があるのか、どのような文化的・社会的知識が読解指導にあたって必要なのかを突き止めることも、日本語教育にとっては重要な課題である。

1. 3 本稿の目的

以上の課題を追求するためには、まずもって日本語学習者と日本語母語話者の読解の仕方にどのような違いがあるのかを知ることが必要である。本稿の調査は質問紙を用い、日本語の評論的随筆に対する主観的な判定と、判定に関するコメントを求めるもので、中国語を母語とする院生と日本語を母語とする院生で、筆者の主張や論理展開に対する理解の仕方や主観的な印象が同じかどうか、もし異なるとすれば何がどのように異なるのかを、批判的な読みという観点から探ることを目的とする。

2. 質問紙調査の方法

調査に協力したのは、中国の大学院で日本語・日本語教育を専攻する中国語を母語とする大学院生 17 名と、日本の大学院で文系や理系の分野を専攻する日本語を母語とする大学院生 18 名である。中国の大学院生は全員日本語能力検定試験の N1 を取得している。

使用したテキストは、坂東真理子著『錆びない生き方』（講談社 2010 年）所収の「ペットと人間」という 1,285 字の随筆である。この随筆は、筆者が自分の意見や主張を述べるもので、評論の要素を併せ持つ。立川（2013）は、「随筆的」な性格を持つ「評論」を「随筆的な評論」と名付けているが、本稿が用いた「ペットと人間」は、筆者の主張に至るまでの論理が明瞭に展開されているわけではなく、また、筆者の主張に対する根拠も十分に示されていない「情緒的」と言えるような文章である。そこで本稿では、情緒的に自説を述べるこの種の随筆を「評論的な随筆」と呼んでおくことにする。もとより「評論的な随筆」と「随筆的な評論」に明確な区別があるわけではなく、両者の違いは程度の差に過ぎない。その中で今回使用したテキストは一般向けの気軽な読み物で明解な論理を追求するものではなく、どちらかというとも情緒的に自説を述べる「随筆」のほうに位置づけられるテキストであると言える。

巻末の資料にテキスト本文と質問紙の日本語版を掲載したので参照していただきたい。

本稿の調査で使用した評論的な随筆のテキストは、次に示す起承転結の構造を持っている。（ ）の中は該当する部分の文字数である。

【起】友人がペットロスからようやく立ち直った。

人には愛情の対象が必要だ。（407 字）

【承】先日、癒やしロボットを見て考えさせられた。

本当の癒やしは人間から得られると考えていたが、
ロボットのほうが忍耐強いし忠実だ。（835 字）

【転】「その代わり人間は思いがけなく崇高なことも行います。」（21 字）

【結】「私はもう少し人間に期待をしたいのですが...。」（22 字）

上記の【起】と【承】には要約文を示してあるが、【転】と【結】は本文で語られた文そのものの引用である。これらの文字数を見てわかるように、テキストのほとんどは【起】と【承】で占められており、【転】と【結】は最後の段落の末尾で、それぞれ一文ずつによって示されるだけである。このように、このテキストは、起承転結の構造としてはかなり変則的なものである。また、本文で用いられている日本語は、j-Readability³ で判定した結果、「中級後半（やや難しい）」というレベルで、外来語が多用されていることを除けば、N1 レベルの学習者にとって「比較的やさしい」と感じるレベル

のものである。

質問紙は中国語と日本語で作成し、中国人は中国語の質問紙に中国語で回答、日本人は日本語の質問紙に日本語で回答した。

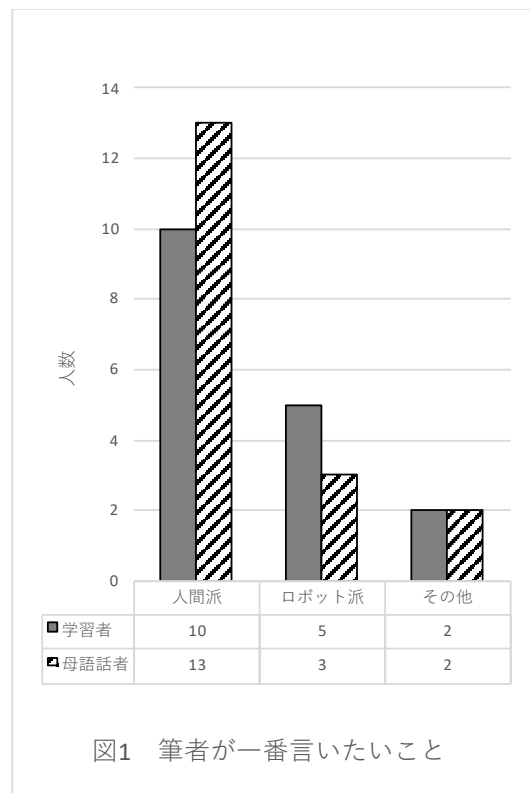
3. 調査結果

この節では質問紙の問の順番に沿って調査結果を報告するが、肯定的な回答よりも否定的な回答のほうに多く注目して論じることにする。サブタイトルの（ ）内は質問紙の問番号である。

3. 1 筆者が一番言いたいこと（問1）

回答のほとんどは「人間派」と「ロボット派」に分けられる。「人間派」とは、「本当の癒やしは人間にある」や「癒やしは人間に期待したい」のように「人間」に着目したもの、「ロボット派」とは「人間はロボットに癒やされる」や「癒やしロボットが普及する」のように「ロボット」に着目したものである。

図1が示すように、学習者も母語話者もロボット派より人間派のほうが多い。ただし、ロボット派は母語話者では全回答の17%弱だが、学習者では30%弱と学習者の比率のほうが高い。母語話者に比べて学習者にロボット派が多いのは、この随筆でロボットに関する記述が全体の65%をも占めているということが影響し、叙述の多さに注意が向き、主張のポイントを十分に読み取れなかったことが原因ではないかと思われる。以下に人間派とロボット派のコメントの例を示す。大文字のアルファベットはID記号である。



<人間派・学習者K>

作者想表达的是人们可以通过养宠物来获得治愈，机器人也能给人带来治愈，但是最重要的连接还是人与人之间的感情（人間はペットやロボットに癒やされるが、最も大切なのは人と人との愛情である）。

<人間派・母語話者F>人間同士の間で得られる愛情や癒しは得難い分、かけがえのないものである。

<ロボット派・学習者Q>

人需要一个精神上的陪伴。随着科技的进步由机器人代替这种“陪伴”的日子不再遥远（人間にとって愛情の対象は必要である。科学の進歩により、ロボットが「愛情の対象」になるのはもはや遠くないだろう）。

<ロボット派・母語話者G>

人間は、愛情の対象としてペットを飼い、また近年ではその役割としてロボットが注目されているということ。

また、人間派とロボット派のどちらにも属さない回答が学習者と母語話者に2名ずつあった。以下にその全回答を示す。

<学習者 D>

人们也需要重新审视自己所需要的究竟是什么（自分にとって何が一番大事なのか、人間はまた考える必要がある）。

<学習者 L>

表达了作者对人际关系存在方式的忧虑（筆者の人間関係に対する懸念が表明されている）。

<母語話者 B>

愛情の対象を何/誰に見出すかは人それぞれであるとはいえ、近年ではロボットがその役割を担うことが期待されつつあることへの違和感。

<母語話者 I>

議論の展開が論理的ではなく、筆者の主張が明確に伝わらないため、残念ながら、筆者が一番言いたいことが、読者の立場から極めて読み取りづらい状況になっている。

これらのコメントは人間派ともロボット派とも違い、両者を俯瞰したより抽象的な見方を示したり、主張が明確でないという批判的な意見を述べたりしている。

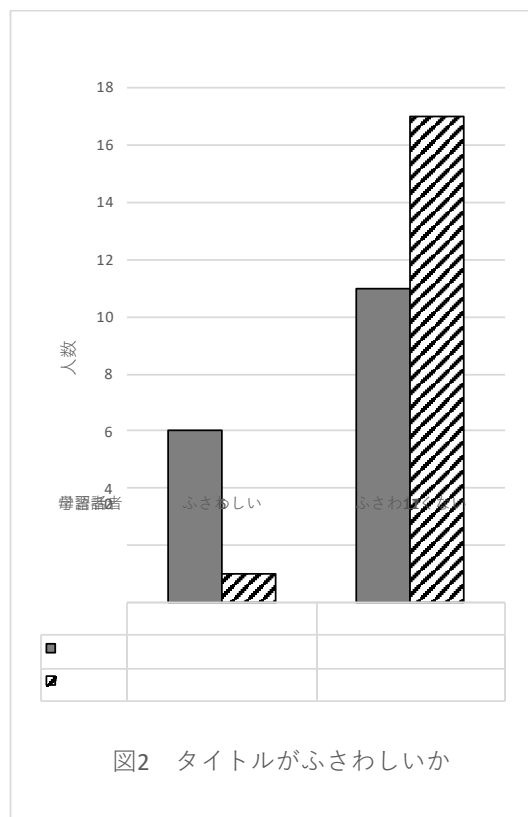
3. 2 「ペットと人間」というタイトル（問2・問3）

「ペットと人間」というタイトルがこの文章にふさわしいかどうかという問に対して、図2が示すように、母語話者は一人を除き全員がふさわしくないと答えている。学習者の場合もふさわしくないと答えた者のほうが多いが、ふさわしいと答えた学習者が6名おり、母語話者ほどこのタイトルに批判的ではない。

次のコメントは学習者のものであるが、この例のように、ロボットをペットと同一の範疇であると理解した者はほぼ全員がふさわしいと答え、ロボットをペットとは異なる範疇であると理解した者はほぼ全員がふさわしくないと答えている。

<ふさわしい・学習者 M>

虽然文章后半部分是围绕“治愈系机器人”展开的，但结合上下文可意识到其仍属于“宠物”的范围；故全文都在讲述“宠物”可以满足人们的情感需求（文章の後半は「癒しロボット」についてだが、文脈からするとそれも「ペット」の範囲に入る。ゆえに、この文章はペットが人間の愛情の対象であるということ述べている。）



<ふさわしくない・学習者 E>

本文不仅列举了宠物和人之间的关系，也同时提到了机器人与人的关系（この文章は、ペットと人間との関係だけでなく、ロボットと人間の関係についても述べている）。

一方、母語話者の中には、ふさわしくないことの理由に「ペットと人間というテーマでは収まりきらない内容が描かれているから」という意味のコメントを述べている者がいる。テキストに表現された文字通りの意味を越えてより深く読もうとする態度の表れではないかと考えられる。以下にその例を示す。

<ふさわしくない・母語話者 L>

ペットとの関係性が主題なのではなく、癒しを人以外に求めなければならなくなった人間関係の希薄さや、繋がりへの忌避といった面への問題提起がなされているから。

<ふさわしくない・母語話者 O>

ペットに関連する話題は最初の段落の方だけで、話はペットと人間との間の話というよりも人間はどこから癒しを得るべきなのかということに関してのトピックであると感じたから。

母語話者のうち4名がこの種のコメントを行っているが、学習者には同様のことを明示的に述べているコメントは見られなかった。

3. 3 文章の展開がわかりやすいか（問4・問5）

「文章の展開がわかりやすい」に「強く賛成」「まあ賛成」「まあ反対」「強く反対」の四択で回答した結果を表1に示す。「強く賛成」「まあ賛成」を「賛成派」、「まあ反対」「強く反対」を「反対派」とした場合、賛成派は学習者が10名、母語話者が13名、反対派は学習者が7名、母語話者が5名でどちらも賛成派の方が多い。一方、反対派の比率は学習者が41%、母語話者が28%と、学習者のほうが高い。

表1 文章の展開がわかりやすい

		学習者		母語話者	
賛成派	強く賛成	0	10 (59%)	1	13 (72%)
	まあ賛成	10		12	
反対派	まあ反対	7	7 (41%)	5	5 (28%)
	強く反対	0		0	

学習者の反対派は、ペットからロボットへの転換が唐突であるとする意見が最も多かった。それに対し、母語話者の反対派は、文章全体の内容に一貫性が欠けるという意見が最も多かった。学習者の場合は一つのトピックから次のトピックへの転換部に注目した者が多かったのに対し、母語話者の場合は文章全体の構成や内容の一貫性に着目する者が多かったと言える。また、母語話者18名のうち6名は、「ペットからロボットへの転換が唐突」という意味の記述をしているにも関わらず、「まあ賛成」と肯定的な回答をしている。このことから、母語話者はトピック転換の唐突さがわかりやすさの評価にそれほど大きく影響しなかったことがわかる。それに対し、学習者のうち同様の回答をした者は1名だけで、学習者の多くはトピック転換の唐突さがわかりやすさの評価に影響している。以下にトピック転換の唐突さを指摘しながら「まあ賛成」と回答した学習者と母語話者の例を示す。

<まあ賛成・学習者 E>

全文从宠物与人的关系作为切入点从而引发对人与人之间关系的探讨,从小见大,反衬的恰到好处,但是在从宠物与人的话题转变到人与人之间关系的过渡比较突兀,故选择比较同意(ペットと人間との関係を切り口として人間関係についての検討を導いたことは、小さなことからより大きな話題に繋ぐコントラストが見事だと思う。しかし、ペットと人間から人と人の関係へと話題が変わるのが比較的突然だったので、「まあ賛成」を選んだ)。

<まあ賛成・母語話者 F>

まず身近な話題でテーマへ導入し、その後に具体的な数字や事実を述べることで「人には愛情の対象が必要」というテーマへと結びつけている点はわかりやすい。しかし、ロボットの例に移るときにペットについて全く触れていないため、文章の前半と後半で展開が唐突に変わったように感じた。

<まあ賛成・母語話者 J>

具体的な事例の導入、現状の説明、そしてそれに対する意見、という構造は比較的わかりやすいと感じたから。しかし、この短さの文章では仕方がないのかもしれないが、ペットの話題からロボットの話題へと移るところなど、少し話の展開が急になったような印象も受けたため、「強く賛成」はしなかった。

以上のことから、文章の展開がわかりにくいと感じた者は学習者のほうが多いが、文章の展開に関する批判的な意見を述べた者は母語話者の方が多く、総じて母語話者の方が批判的な読み方をしているとと言える。

3. 4 筆者の主張が明解か (問6・問7)

「筆者の主張が明解だ」に「強く賛成」「まあ賛成」「まあ反対」「強く反対」の四択で回答した結果を表2に示す。「強く賛成」「まあ賛成」を「賛成派」、「まあ反対」「強く反対」を「反対派」とした場合、学習者は賛成派が11名、反対派が6名と賛成派が過半数を占めるのに対し、母語話者は賛成派が5名、反対派が13名と反対が過半数を占める。反対派の比率は、学習者が35%であるのに対して母語話者は

		学習者		母語話者	
賛成派	強く賛成	4	11 (65%)	3	5 (28%)
	まあ賛成	7		2	
反対派	まあ反対	5	6 (35%)	10	13 (72%)
	強く反対	1		3	

72%と、母語話者の方がかなり高い。このことから、主張の明確さに関しては、学習者に比べて母語話者のほうが批判的な読み方をしていることがわかる。以下に賛成派と反対派のコメント例を示す。

まず、賛成派では、その理由の中に「最後の段落に主張がある」というコメントが多い。このコメントは学習者・母語話者ともに観察される(学習者6名、母語話者3名)。

<賛成派・学習者 M>

从最后一段可以看出,作者认为人的情感寄托应在人与人之间的交往中实现(最後の段落からわかるように、筆者は人間の感情は人と人の付き合いの中で実現されるべきだと考えている)。

<賛成派・母語話者 N>

自分の経験や見聞をしたことを踏まえ、自分の考え・結論を最後に述べているから。

次に、反対派では「ロボットと人間とどちらがいいのか明確でない」とする意見が学習者・母語話者ともに観察される（学習者1名、母語話者3名）。

<反対派・学習者 K>

作者前面介绍了机器人能够给人类带来治愈，后面阐述了自己的治愈来自周围人，而不是机器。但是没有明确的说明哪个更好（前半ではロボットが人間に癒しを与えることを述べているが、後半では機械ではなく、人間が癒しをもたらすことを述べている。しかし、どちらがいいのかは明確に説明していない）。

<反対派・母語話者 K>

結局、ロボットを導入していくべきなのか、それとも人間の方がもっと工夫していくべきなのかが曖昧だと思う。

また、反対派では、そもそもはっきりした主張が述べられていないとする意見が学習者・母語話者ともに観察される（学習者3名、母語話者2名）。

<反対派・学習者 D>

我认为这种写法有点绕弯，不是很明确。但是这种写法可能比较符合日本人陈述观点的习惯（この書き方は少し遠回りし、はっきりしていないと思う。しかし、この書き方は日本人が観点を述べる際の慣習に合うかもしれない）。

<反対派・母語話者 J>

最終段落で筆者の意見は多少つづられているが、「どちらかといえばこう思う」程度のものであり、そもそもはっきり意見を述べているような文章とはとれないから。

主張が明解でないとする反対派の理由として母語話者の多くは一貫性の欠如を指摘している。以下にそれらの主だったものを挙げる。

<反対派・母語話者 B>

最後の一文で、人間とロボットの比較で、ロボットのほうが罪がないといいながら、たまに崇高なことを行なうがゆえにもう少し人間に期待したい…と展開しているのが唐突であり、それが筆者の主張であったとしても、前の文章とのつながりがゆるく、主張とは理解しがたい。

<反対派・母語話者 G>

最終段落の「たしかに…」という譲歩の部分の後ろの部分で、筆者の意見が来ることを期待するが、それが明確に示されていないため、主張が少々漠然としている印象を受ける。

<反対派・母語話者 P>

末尾ではロボット側の価値を認める記述をしたり、人間側に寄り添う主張をしたりと論が一貫しない。

これらは、議論の展開が論理的ではなく、論が一貫していないという指摘である。母語話者の5名がこの種のコメントを行っていた。一方、学習者のコメントにはこの点を明確に指摘したものは見られない。母語話者の反対派に見られるその他のコメントには以下のようなものがある。

<反対派・母語話者 M>

最も主張したい事だと考えられる最終段落での主張（人間同士が関わり合うこと）についての記述の展開が少なかった。

<反対派・母語話者 F>

筆者の実体験や統計的な事実がほとんどを占め、筆者の主張がわかりにくいと感じた。また、「～だそうです」といった伝聞の文末表現が多く用いられていることも、その主張がわかりにくくなっている要因であると思われる。

一方、学習者の中には、「まあ賛成」と回答しながら、主張に対する事例が挙げられていない、あるいは中心的な論点が最後の部分で簡単に述べられているだけだという批判的なコメントをした者がそれぞれ1名ずついる。

<まあ賛成・学習者 B>

作者自身の观点は、我们人类的真正的治愈是来自与家人朋友等身边的人，也就是来自于人类。但是，这一中心观点，是在文末才出现的。而且只有观点没有事例（筆者自身の観点では、私たちの本当の癒しは家族や友人のような身近な人、つまり、人間のほうである。しかし、この中心的観点は、文章の最後で出されること、また、事例がなく筆者の観点が示されるだけである）。

<まあ賛成・学習者 D>

读完整篇文章，我认为最这最想表述的是：希望人类更加重视真正的人与人、或是人与动物之间的情感。但这一中心部分仅在文章结尾的部分做了笔墨不多的描述。前面描述人与宠物之间的篇幅过长，显得中心不是太明确。但总的来说文章的关键词没有偏离，所以我认为思路比较清晰（最後まで読んで、中心的な論点は、真の人と人、人と動物との感情を大事にしてほしいということだと思った。しかし、このことは文章の最後にわずかに触れられているだけである。前半で人間とペットの論が長すぎて、中心的な論点が明確に描かれていない。しかし、全体的には、文章のキーワードから逸脱せず、構想が比較的是っきりしていると思う）。

以上のことから、主張に至るまでの議論の展開に着目し、批判的に捉えた者は学習者より母語話者のほうが多く、批判的なコメントの内容も母語話者のほうが詳しく述べている。しかし、学習者 D が筆者の曖昧な述べ方について「但是这种写法可能比较符合日本人陈述观点的习惯（しかし、この書き方は日本人が観点を述べる際の慣習に合うかもしれない）」とする指摘を行ったことは興味深い。日本の随筆が情緒的になりがちであることを理解し、それを受け入れようとする姿勢が読み取れるように思われる。総じて日本語教育を行うとき、「日本人ははっきりものを言わない」「日本人は曖昧な言い方を好む」など、ステレオタイプの日本人観を教師は教えがちである。このような日本人観を受け入れた学生達は、仮に分かりにくい論旨の文章であっても、なるべく好意的に受け入れようとして読むのではないかと思われる。中国語を母語とする学習者が日本語を母語とする学生達よりも肯定的に

受け入れようとしたのは、このような事情もあるのではないかと思われる。

3. 5 言いさし文について (問8・問9)

問8は、テキストの最終段落の最終行にある「私はもう少し人間に期待したいのですが...。」という言いさし文の「…」部分の内容が推測できるかというものである。この問の結果は表3が示すとおり、学習者は一人を除き全員が推測できると回答したが、母語話者は推測出来ないと回答した者が5名もいる。そのうちの4名が「筆者の主張が明解だ」の反対派で、主張が明解でないと感じたことが言いさし部分を推測しにくくさせた原因である可能性がある。

最後の問9で、推測できると回答した者にその部分を言葉にして完全な文で言い表すよう求めたところ、日本語母語話者は、「(私はもう少し人間に期待したいのですが)今の時代には難しいことでしょうか」「(私はもう少し人間に期待したいのですが)実際には人間より、「ロボット」に期待が高まっているように感じます」など、随筆の筆者が書くと思われる内容を推測し、全員がごく短い一文で表現した。それに対し、学習者は、母語話者と同様に簡潔な文で回答した者はわずかに3名だけで、そのほかは次のように、2文以上の長い文を書いた者や、読み手である自分の解釈を解説的に述べている。

	学習者	母語話者
できる	16	13
できない	1	5

<学習者 B>

改变了人类罪孽深重, 不能互相理解, 任性等印象, 像机器人一样忍耐力强, 忠实地给予温柔的回应, 不会背叛, 会做出意想不到的高尚的行为 (従来の罪深い、アテにならない、自分勝手な存在というイメージを更新し、ロボットのように忍耐強く、忠実にいつも優しく反応してくれるし、裏切ったり、気が変わったりもしない。思いがけなく崇高なことも行う)。

<学習者 F>

作者想表达的大概是, 即使人类有很多弱点, 但作者仍然相信只有人类才能治愈人类, 也期待着能够得到人类的陪伴和治愈 (たぶん筆者が言いたいのは、人間には色々な弱みがあっても、人間は人間にしか癒されることができず、そして人間からの付き合いと癒しをもらいたいということなのではないだろうか)。

問9の日本語と中国語の指示文は以下の通りである。

- 上記の8について、「推測できる」と答えた人は、その部分を言葉にして完全な文で言い表してください。
- 针对上述8, 请选择“我能够推测出来”的人, 将所推测的内容填写在下面的框中。

両者の問はほぼ同義であると思われるのだが、なぜ学習者の回答の仕方が母語話者と大きく異なったのか不明である。

3. 6 まとめ

以上の調査をまとめると次のようになる。

否定的な回答のうち、タイトルがふさわしくないと考えたり「筆者の主張が明解だ」に反対したりする者は母語話者のほうが多く、「文章の展開がわかりやすい」に反対する者は学習者のほうが多い。

「文章の展開がわかりやすい」に反対の理由は、学習者ではペットからロボットへの転換が唐突だという回答が多いが、母語話者では内容に一貫性が欠けるという回答が多い。母語話者の場合、ペットからロボットへの転換が唐突だと指摘した者も、「文章の展開がわかりやすい」にほぼ賛成と答えており、トピック転換の唐突さは学習者ほど文章のわかりやすさを損ねる要因にはなっていない。

「タイトルがふさわしくない」の理由として、母語話者は、「ペットと人間」だけでは収まりきらないテーマを述べているという指摘をしたり、「筆者の主張が明解だ」に反対する理由として展開が論理的でなく内容が一貫していないという指摘をしたりするなど、全体的に、論の進め方や内容の一貫性について批判的な読み方をしている者が多い。それに対し、学習者は、トピック転換の際の前後のつながりを重視し、筆者の論理を丁寧に追っていく読み方をしている者が多いように思われる。

今回の調査で、中国語を母語とする学習者たちの多くには、日本人的な論理展開をなるべく肯定的に読み取ろうと努力し、前後の文脈のつながりを丁寧に読み解こうとする姿勢が認められる。全体的な議論の展開や論旨の首尾一貫性といった大局的な部分への目配りが日本語母語話者よりも弱くなるという傾向は、そのことが原因の一つではないかと思われる。このことから、日本語の読解指導においては、局所的な文章のつながりを読み解く他に、全体的な視野から議論の展開を把握し、筆者の意見の組み立て方や内容の首尾一貫性などに目配りするといったことの指導が必要であると言える。

以上、主として否定的な回答に注目して学習者と母語話者の違いを述べてきた。本稿で指摘した違いが何に起因するものかについては、1節で述べたように、(1)日本語能力の違い、(2)文章構造のスキーマの違い、(3)学校教育での指導法の違い、(4)内容に関する文化的・社会的な知識の違いなど、多くの要因を考える必要がある。本稿の試みはそれらの問題を考えるための基礎資料と位置づけられるものである。

付記

本研究は国立国語研究所の共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明—日本語学習者の日本語理解の解明—」の研究成果の一部である。

注

1. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/031/toushin/attach/1397267.htm
2. https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryo/05122201.htm
3. <https://jreadability.net/sys/ja>

参考文献

- 立川和美 (2007) 「第5章：随筆のジャンル特性」高崎みどり・新屋映子・立川和美 (編) 『日本語随想テキストの諸相』ひつじ書房, 185-210.
- 立川和美 (2008) 「日本語学習における随筆テキストを用いた読解指導—文学的文章の導入として—」『流通経済大学論集』43(3)147-156.
- 立川和美 (2013) 「日本語の指導における教育的文体論—随筆的評論教材を活用して—」『流通経済大学論集』48(1)29-39.
- 舘岡洋子 (1996) 「文章構造の違いが読解に及ぼす影響—英語母語話者による日本語評論文の読解」『日本

語教育』88号, 74-90.

館岡洋子 (1998) 「文章構造と読解-英語・韓国語・中国語を母語とする日本語学習者と日本語母語話者の
テキスト評価と要約文の型-」 『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター紀要』21, 67-83.

文部科学省 (2005) 「読解力向上に関する指導資料—P I S A調査 (読解力) の結果分析と改善の方向—」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryu/05122201.htm

資料

ペットと人間

最近私の友人がペットロスからやっとなち直りました。十年以上一緒に暮らしていた愛犬が死んで、その喪失感から軽うつ病状態になったのです。ペットはコンパニオンアニマルとも呼ばれていますが、生活に潤いを与えるだけでなく、人生の伴侶であり、家族の一員なのだなと感じました。

現在の日本では犬は千三百万匹以上、猫は約千二百万匹飼われており、十四歳以下の子供の数より一千万匹近く多いそうです。たしかに私の通勤途中でもブランドのファッションを身につけた珍しい種類の犬を連れて散歩している人にたくさん会います。

子供を育てるのは責任が重くてお金もかかり難しい、孫はいないか遠くに住んでいる。けれど、**人には愛情の対象が必要**なのです。ペットフーズ、ペットのファッションや美容だけでなく、ペット飼育可のマンション、ペットの医療保険、ペットの葬儀屋さんなど、ペット向けのサービスがどんどん成長していて、今や二兆円に迫ろうという勢いだそうです。

先日は「癒しロボット」を直接見て、触って考えさせられました。癒しロボットは正確には、「メンタルコミットロボット」というようですが、アザラシの赤ちゃんをモデルにしており、目や足が動き、なでると声を出して喜び、乱暴に扱われるとおこります。パソコン二台分ほどの容量を持つ人工知能を埋め込まれているので、頻繁に呼ばれる声を自分の名前として認識でき、名前を呼ばれると反応します。重さは約 2.7 キロ、新生児の体重とほぼ同じです。

一九九三年から研究開発が始まり、性能や抱き心地など改良を重ねています。また高齢者や長期入院の人のリハビリを助け、精神を痛む人たちにもアニマルセラピーとして効果を上げているそうです。特別養護老人ホームやデイケアセンター、小児病棟や児童養護施設、高齢者の家庭でも愛されているそうです。アルツハイマー病の高齢者のセラピーには効果があることが確認されています。

癒しロボットは、一体三十五万円と安くはありませんが、将来の需要は大きいと見込まれています。日本の人工知能にかかわる高度技術と細やかな美的感覚は、今後さらにかわいく賢いロボットを生んでいくに違いありませんから、輸出産業になるとも期待されているそうです。「AIBO (アイボ)」という歩行型ロボットも制作されていますから、人間の形をしたロボットが開発され、話し相手や相談相手、遊び相手を務めるロボットが生まれる日はそれほど先でないでしょう。

私は本当の癒しは家族や友人のような身近な人から得られる、孫がいなければ友人の子でも近所の子でも可愛がってあげればいいし、愛情を必要としているけれど得られない人たちには、地域やサークルなど有縁の人がボランティアとしてかかわっていくべきだと考えていました。でもロボットのほうが忍耐強く、忠実にいつも優しく反応してくれるし、裏切ったり、気が変わったりもしないそうです。たしかにロボットと対比すると、人間とはそうした罪深い、アテにならない、自分勝手な存在なのだろうと思います。その代り思いがけなく崇高なことも行います。私はもう少し人間に期待をしたいのですが……。

坂東真理子『錆びない生き方』

質問紙

(日本語母語話者用)

専門 _____ 年齢 _____ 性別 _____

1. 作者が一番言いたいことはなんだと思いますか。次の枠に記入してください。

2. どちらか一つを選んでください。

「ペットと人間」というタイトルはこの文章のタイトルとしてふさわしいと

() 思う。

() 思わない。

3. どちらか1つを選んで応えてください。

上記の2について、「思う」と答えたのはなぜですか？その理由を次の枠に記入してください。

上記の2について、「思わない」と答えたのはなぜですか？その理由を次の枠に記入してください。

4. 「この文章の展開の仕方はわかりやすかった。」という意見に

(1. 強く賛成する 2. まあ賛成する 3. まあ反対する 4. 強く反対する)

5. 上記の4について、なぜそのように思いましたか。

6. 「この文章は筆者の主張が明解だ。」という意見に

(1. 強く賛成する 2. まあ賛成する 3. まあ反対する 4. 強く反対する)

7. 上記の6について、なぜそのように思いましたか。

8. 最後の文「私はもう少し人間に期待をしたいのですが……。」は末尾が「……」となり、最後まで表明されていません。この部分を言葉にして完全な文で言い表すとしたらどんな文になるか

() 推測できる。

() 推測できない。

9. 上記の8について、「推測できる」と答えた人は、その部分を言葉にして完全な文で言い表してください。